

# 「ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅」

- 3年間を見通したキャリア教育を核として -

千葉市立みつわ台中学校 教諭 根本 晃 男  
教諭 平野 正 春

はじめに

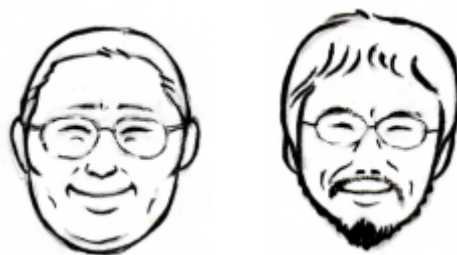
テーマについて

具体的な取り組み

- 1 . 1 学年修学旅行 . . . . 東京下町の地場産業を中心とした職場体験
- 2 . 2 学年自然教室 . . . 高原千葉村でのスキー学習  
2 学年特別活動 . . . 南東北の旅行企画を立てよう
- 3 . 3 学年修学旅行 . . . . 山形での職業体験・人とのふれあいの旅  
事前の活動  
1 日目の活動  
2 日目の活動  
3 日目の活動  
事後の活動  
最後に . . .

まとめと今後の課題

- 1 . 実践の成果
- 2 . 今後の課題



## はじめに

本校は今年30周年を迎える。学区は閑静な住宅街、大きな公営の団地、商店街などいろいろな環境が混在している。近くにはレッサーパンダの「風太くん」で一躍有名になった「千葉市動物公園」などもある。

開校当時は5学級のスタートで昭和63年には28学級1200人を越える生徒を抱えていた。その後生徒数は減少傾向にあり（本年度より若干増加傾向ではあるが）現在は特別支援教室を含む19学級である。学校教育目標は「心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成」で、個々の生徒・集団が活き活きと生活し、活力のある学校を旨ざしている。

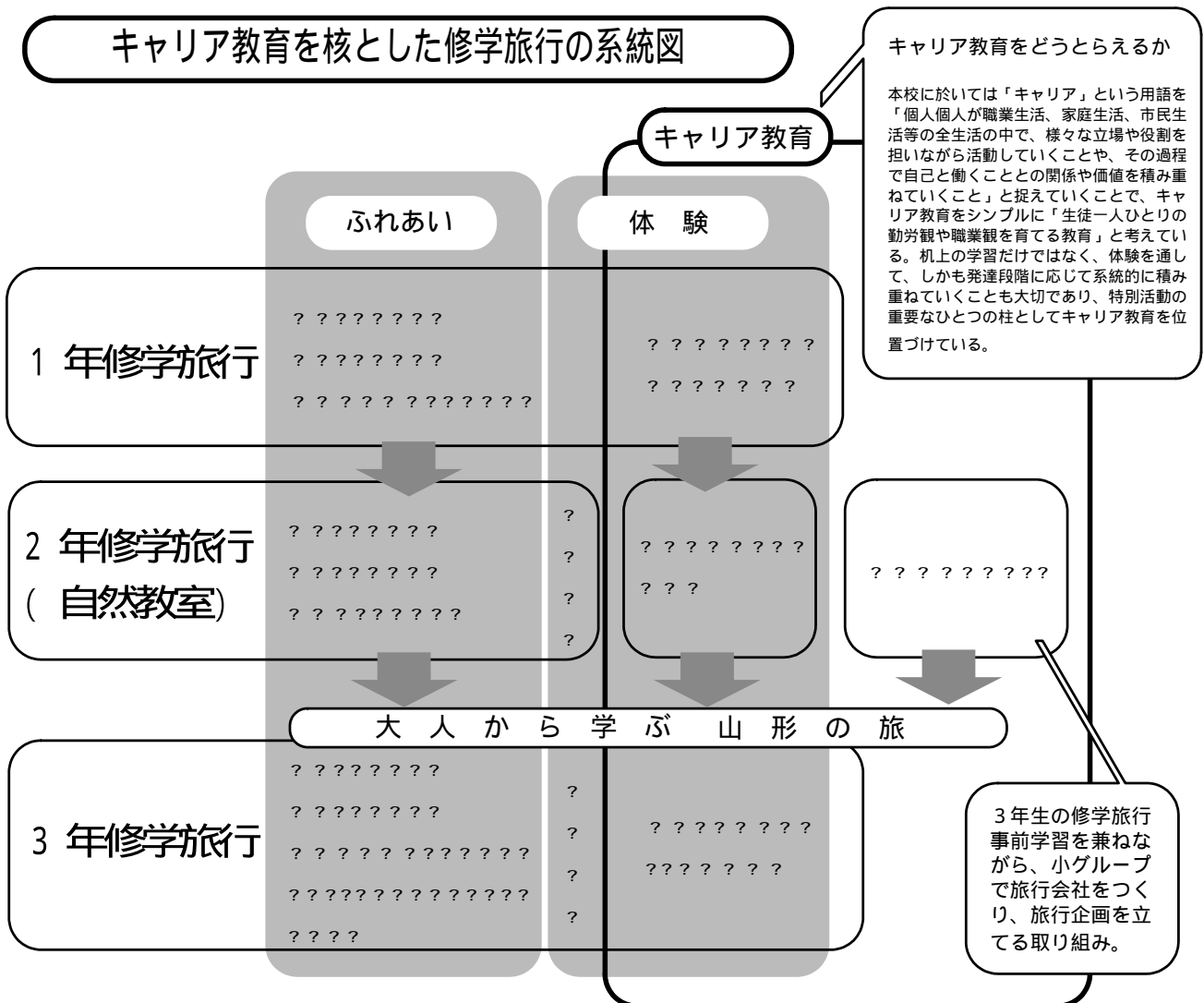


登校風景

## テーマについて

「ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅」 - 3年間を見通したキャリア教育を核として -

### キャリア教育を核とした修学旅行の系統図



## ふれあい

生徒相互、生徒と教師、生徒と回りにいる大人の人たち等、人とのふれあいを通して、私たちが忘れてはならない「人と人との関わりから生まれてくる温かい心」を育てていくことが、3年間の修学旅行の根底に流れている。

## 体 験

子どもの自然体験・社会体験の不足が指摘され、その解消が「生きる力」育成のために欠かせないことが中教書の答申でも指摘されている。

本市ではそうした実態に対応して、小・中学校における様々な体験学習を系統化し、各学年における修学旅行等を関連づけて実施することを求めている。また、その実施にあたっては、活動場所の検討や予算面で市教委各課の支援をいただき、市の事業として運営される行事も、小学校5・6年、中学校2年に用意されている。本校に於いても体験の場を修学旅行の中に組み込みながら「生きる力」の育成を図っていきたいと考えている。

## 大人から学ぶ山形の旅

日常の学校生活の中では、大人の人たちからの学びの場を設定していくことは教師側が与えていくという要素が強くなる。1年、2年での修学旅行の活動の中で自然な形で大人から学ぶ場を設定し、積み重ねていくことで、山形での3年生の修学旅行を、与えられる学びから、自ら求めていく学びへとしていけたらと考えている。

## 3年間を見通したキャリア教育

修学旅行においては、1年生では校外学習の半日を東京下町の地場産業を中心とした職場見学にあてた。ここでは東京下町の伝統文化を学ぶ場とし、2年では総合的な学習の時間と特別活動の時間を使って、みつわ台地区を中心とした身近な地域で5日間に渡って実施する職場体験への発展的な意識付けを図っている。また、特別活動や総合的な学習の時間を使って、「旅行企画を立てよう」という単元を設け、3年生の修学旅行事前学習を兼ねながら、小グループで旅行会社をつくり、旅行企画を立てる取り組みを実践した。

3年生では山形方面への2泊3日の修学旅行の1日をあて、第1次産業を中心（農業体験が中心）とした職場体験を修学旅行の中で展開し、幅広い知識の習得だけでなく、現地の方々との交流を図っている。このように本校では特別活動、総合的な学習の時間、旅行的行事をリンクさせながら3年間を見通して人とのふれあいや体験を重視したキャリア教育を実施している。

## 具体的な取り組み

### 1. 1 学年修学旅行

具体的には、まず公共交通機関の利用である。班行動、現地集合を基本とし、ラッシュアワーの電車に乗車することで、実際に職場見学に臨む前に、家族が毎日こうした混雑を経験していることをまず理解させた。一部の生徒が道に迷うことが危惧され、実際に地下鉄の出口を間違えるなどの事態もあったが、不安に耐え、自力で対策を講ずることも貴重な体験の一部である。いくつかの班は集合地点には集合できなかったものの、時間を見て判断し、配属先の事業所に直接赴くなどの対応をしていた。特別支援教室の生徒1名も参加したが、この生徒については学級担任が後ろから見守るなどの支援が必要である。また、学年職員のほか学校運営に支障をきださない範囲で最大限の教員（17年度は12名）を派遣し、生徒の掌握、安全確保の他、受け入れていただいた各事業所へのあいさつ等の対応にあたった。

見学先は吹きガラス・桐タンス制作・江戸切子ガラスなど、浅草を中心とした20の事業所にご協力いただいた。1事業所あたり5名から10名(1~2班)の生徒が訪問し、江戸の伝統を守る職人さんたちの熱意と技量に圧倒されていた。また、親切な対応に感動する生徒も多かった。

ここで課題となるものは受け入れていただく事業所の開拓である。現在、事業所を統括する組織がほとんど存在しないため、当初は何度も東京の下町に行き、時間をかけてお願いして回り、次年度以降の受け入れについても協力していただいた。

入学間もない生徒にとっては学級作りの場としても、

1組	班名	山田クロース	遠藤フーゴ	スー産	藤バッチ	高橋レモン	よっし	のせ組	鳥次郎	間苗原
職業先	梅鉢屋	モルテン	アシックス	鈴木木工所	長谷川商店	松根屋	久月	三浦屋	つば屋	
集合場所	錦糸町駅	錦糸町駅	錦糸町駅	森下駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋
集合時間	8:50	8:35	8:50	8:40	8:50	8:50	8:50	8:40	8:40	8:40
職場到着時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
職場出発時間	9:45	10:00	10:00	10:00	9:45	9:45	9:45	9:45	10:00	9:45
学級集合場所	上野動物園西門									
到着時刻	10:30	10:45	10:45	10:40	10:30	10:30	10:30	10:30	10:45	10:25
出発時刻	14:00									
浅草着	14:30									

2組	班名	グレートはら	申じー	トリービー	後援グループ	かま	吉時計	キースリー	ブリッジ	おちち
職業先	梅鉢屋	モルテン	アシックス	鈴木木工所	長谷川商店	松根屋	久月	三浦屋	つば屋	
集合場所	小村井駅	錦糸町駅	錦糸町駅	森下駅	森下駅	菊屋橋	上野駅			
集合時間	8:50	8:35	8:50	8:40	8:30	8:40	8:40	8:50		
職場到着時間	9:05	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:10		
職場出発時間	9:50	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	9:50	10:10		
学級集合場所	浅草雷門前									
到着時刻	10:40	10:40	10:40	10:40	10:50	10:30	10:40	10:40		

3組	班名	新橋 中津江村	小笠原謙雄	いがちゃん	おにぎり	吉田んご	えんどうまめ	みほん茶
職業先	宮田金屋	梅鉢屋	松徳硝子	豊田スグレ	久月	川崎商店	山下資器	
集合場所	堀切馬場	小村井駅	錦糸町駅	森下駅	森下駅	菊屋橋	菊屋橋	
集合時間	8:30	8:50	8:50	8:40	8:50	8:45	8:45	
職場到着時間	9:00	9:05	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	
職場出発時間	10:00	9:50	9:45	10:00	9:45	9:50	9:45	
学級集合場所	浅草雷門前							
到着時刻	11:00	10:40	10:30	10:40	10:30	10:30	10:30	

4組	班名	のみや	マツモト	青シマン	つっちい	西山重団	おぼはん	ナカアコ	のくち	マッコロニ
職業先	アシックス	金久保健	長谷川商店	松根屋	武蔵製作所	東京美研	田中漆器店	釜浅商店	石山製作所	
集合場所	錦糸町駅	森下駅	浅草橋駅	浅草橋駅	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	
集合時間	8:50	8:40	8:50	8:50	8:30	8:45	8:40	8:40	8:45	
職場到着時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	
職場出発時間	10:00	10:00	9:45	9:45	9:45	9:45	9:45	9:45	9:45	
学級集合場所	上野公園口									
到着時刻	10:45	10:40	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	
出発時刻	14:00									
浅草着	14:30									

5組	班名	アトメ	木下japan	小林サッカ	ヒラマツキ	村山んぼ	ハシモ	マドンナ	キネリー
職業先	宮田金屋	小鉢硝子	富次さん	東京美研	石山製鉄所	山下資器	久月	ミカサ	
集合場所	堀切馬場	住吉駅	森下駅	浅草橋駅	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	上野駅
集合時間	8:30	8:20	8:40	8:45	8:45	8:45	8:50	8:30	
職場到着時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:10	
職場出発時間	10:00	11:20	10:00	9:45	9:45	9:45	9:45	10:10	
学級集合場所	上野動物園西門								
到着時刻	11:50	12:00	10:40	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	
出発時刻	14:00								
浅草着	14:30								

8:20~ 8:50 J R 錦糸町・浅草橋等職場先最寄り駅集合  
9:00 職場先到着  
職場訪問先については裏面参照  
9:00~10:00 職場見学 学級活動場所へ移動  
10:30~12:00 学級活動場所到着  
~14:00 学級活動  
学級活動場所  
1・5組上野動物園、4組上野科学博物館  
2・3組浅草  
14:30 学年活動場所(浅草)集合  
1・4・5組は浅草までバスで移動  
~16:00 学年活動(浅草寺・仲見世散策・写真等)  
16:00 浅草(バス出発)  
17:15 みつわ台中学校(バス到着) 解散

修学旅行は貴重な行事である。午後は学級別の活動の場としたが、従来の旅行者にお願いした計画をそのまま実施することから脱して、情報は十分提示しながらも、計画は生徒自身の手で立てさせている。条件としては職場体験先からグループごとに公共の交通機関を利用して、昼前後の時間でクラス全員が集合できる場所で、クラス全員が共有の思い出ができる場所であり、そこからクラス1台貸し切りのバスで浅草に14:30には集合できる場所であること、とした。提示された情報-予測-判断のサイクルの中で、現地ですべての条件が不足していたのかを徹底的に討論させ、次回以降に生かせるよう、十分な反省の時間と場を確保している。

3学年の修学旅行では、東京駅集合を基本としているが、1年次の公共交通機関を利用

する体験が生かされ、集合時刻に遅れる生徒は皆無である。これまでは修学旅行の無事な終了のみを期して、無難な計画を与えるだけであったが、「自力・主体」というキーワードは、次の行事に生きる反省を生徒たちに約束している。なお、最後のまとめとしていわゆるワークショップ形式での発表会を実施した。 職場先で説明を受ける生徒たち 最後にとったアンケートの文章



Q1. 今回の学習(修学旅行の職場訪問にともなう学習)で、ためになったことは何ですか?  
A1. 毎朝あのような通勤ラッシュの電車に乗って働きに行っているんだなと思うと、労働者の持ちがわかってよかった。それに何かしろの予期せぬハプニングにも対処できるような判断力もついたと思う。  
そして、こういうときに頼れるのは自分なんだと気付きました。また、いつまでも甘えていても...。小学生じゃなく自分で考えて動ける中学生なんだと、より強く痛感しました。  
A1. 将来どんな仕事に就き、どのように努力していくのかなど見学して実感してきました。世の中にはいろいろな仕事があるのだと、この進路学習を通してよくわかりました。  
A1. 自分たちだけで電車に乗ったりして、マナーや乗り換えの仕方など勉強になった。目上で知らない人に手紙を書いたのは初めてだったので、書き出しや終わりなど手紙の書き方も勉強になりました。

## 2. 2年生自然教室

第2学年では、千葉市の事業として、3泊4日の「自然教室」を実施している。群馬県北部に千葉市の施設「高原千葉村」があり、全中学校（56校）が交代で利用している。そのため、実施日程に制約を受けるが、5年先までのサイクルは確定しており、各学校が実施日に沿った計画を立案することとなる。

平成17年度は2月に担当され、スキー教室を基本としながら、各学級の主体性を発揮する場をいかに確保するかが課題であった。個々の生徒の意見の食い違いを克服しながら、学級のまとまりを確認する機会として活用した。

自然教室に関しては上記のように千葉市の事業として扱われているので、旅行的行事の中では唯一学校の特色を出しづらい行事であるが、自然の中での生活体験や人とのふれあいを大切にしたい企画を立てていったことや、中学校生活の中で初めての宿泊をとまなう旅行でもあるので、生徒たちにとっては思い出深い行事となっている。深々と雪が降る中、サプライズで教師が用意してきた打ち上げ花火を上げた時には、生徒たちが窓から大きな声で「先生ありがとう！」と声をそろえて言ってくれた。我々教師もじんと胸に熱いものが込み上げてきた。



スキー実習の一場面

日 程				
時 間	1日目 2/7(火)	2日目 2/8(水)	3日目 2/9(木)	4日目 2/10(金)
6:30		起床	起床	起床
7:00		朝の集い・清掃	朝の集い・清掃	朝の集い
7:30		朝食	朝食	朝食・大掃除
8:00	出発式			
8:30	出発			
9:00				
9:30		スキー学習開校式	スキー学習開始	
10:00		スキー学習開始		退村式
10:30				
11:00				
11:30	赤城高原SA		スキー学習開校式	
12:00		昼食(食堂)	昼食(食堂)	赤城高原SAにて昼食
12:30	高原千葉村到着			
13:00	昼食(食堂)		スキー返却	
13:30		スキー学習開始		
14:00	入村式(体育館)		コース別学習開始	
14:30	部屋点検・シューズ配布			
15:00	スキー・靴合わせ			
15:30	足慣らし	スキー学習終了		
16:00			コース別学習終了	学校到着
16:30				解散式・解散
17:00	夕食準備	夕食準備	夕食準備	
17:30	夕食	夕食	夕食	
18:00		入浴	入浴	
18:30	入浴			
19:00			キャンドルサービス準備	
19:30		ナイトイベント準備	キャンドルサービス	
20:00	実行委員会議	ナイトイベント(打ち上げ花火)		
20:30	係別会議	雨天時(レク)	キャンドルサービス終了	
21:00	班会議	実行委員会議・係別会議	実行委員会議・係別会議	
21:30		係別会議・班会議	係別会議・班会議	
22:00	消灯	消灯	消灯	

3泊4日の日程

## 2学年特別活動南東北の旅行企画を立てよう

この取り組みは、生徒たちに「南東北のどこに旅行に行きたいか？」という投げかけからスタートし自分たちのいきたいところの旅行企画を立てさせ、その旅行企画のプレゼンテーションをするという内容である。

まず始めに、各学級で2人から3人のグループで旅行会社を作らせ、自分たちの会社のイメージを強くアピールできるよう、会社のネーミングにも力を入れさせた。次に旅行をするという観点で南東北について調べさせてみた。そのために南東北の位置や南東北の3県の紹介や調べる観点を示唆する資料としての修学旅行だより(通称「だより」)を多数発行した。

さらに「だより」だけではなかなかイメージが湧かないのではと考え、約20カ所にのぼる県市町

村の観光課や観光協会などを通して得た豊富な観光パンフレットを「みつわ観光 - 営業2課 - 」の1室や廊下に配置し、自由に閲覧できるようにしたり、本物の観光ポスターを掲示してより鮮烈なイメージを与えるよう工夫してみた。

また、生徒たちは日常の生活の中では自分が行きたい場所やいく必要のある場所は、ごく狭い範囲であり、ましてやそこに行くための交通機関を調べるといった経験はほとんど無いので、時刻表の見方を数学の授業の中に取り入れてみた。基本的な時刻表の見方から関数の応用として距離と料金の算出方法などを学習した。生徒たちはこの授業を通して、時刻表1冊で、ほとんどの交通機関が調べられ、宿泊場所まで出ていることを知ることができた。

企画書作成のための事前の学習は「これを食べたい」「これを観たい」「これをしてみたい」などの気持ちを喚起させ、「場所の決定」や「旅行目的」につなげる役割を担うことができた。

企画書の内容は具体的な行き先、何を目的とした旅行なのか、ツアーの名称、宿泊場所、行程表、交通費・宿泊費等を表示したツアー全体の料金など、本格的なものである。企画書の完成にあたり、各グループの課長（班の代表）は、部長（修学旅行担当教師）に企画書を提出し、さらに社長（学年主任）の判をもらう。

そして、最後の学習として各グループが企画した旅行のプレゼンテーションをクラスごとに発表会として行った。旅行会社の人に見てもらい、クラスで一番良い企画を選んでもらい、文化祭で、全校の前で発表した。



クラスごとの発表会

この取り組みはキャリア教育の一環として実施しながらも、直接3年の修学旅行に直結しており、修学旅行のスタートの取り組みとして位置づけている。自分たちが実際に行く、南東北について調べることで、1日目のクラス別コース選択のための下準備にもなっている。特に本年度の3年生に関しては、上記の自然教室が2月7日～2月10日で3年の修学旅行が5月の下旬であったため、自然教室とこの取り組みを並行して行った。

クラスで第1位になった企画書

### 旅 行 日 程 表

旅行名	歴史巡りツアー	季節	春	旅行会社名	種子島旅行	担当者名	島津・矢野原・藤島
※2泊3日の旅行日程を作ろう!!							
旅 行 行 程							
1日目	千葉 — 総武線快速 — 東京 — MAXやまびこ47号 — 仙台 8:24 9:07 9:24 11:28 屋食「むしゃくらーめん」 仙台駅 — ループル仙台 — 瑞鳳殿前 13:00 13:15						
	……瑞鳳殿……仙台市博物館……仙台城跡……仙台城跡前 — ループル仙台 — 仙台……東横インホテル(白) 夕食「おでん三吉」 13:20 14:30 14:40 15:50 16:00 17:10 17:22 17:44						
2日目	ホテル……仙台 — 仙山線 — 東照宮駅……東照宮……東照宮駅 — 仙山線 — 北山……屋食「牛たん本舗」……北山五山 9:18 9:22 9:30 10:40 11:38 11:44 12:20 13:30						
	……大崎八幡宮……国見 — 仙山線 — 仙台 — 送迎バス — 秋保リゾートホテル前……秋保リゾートホテル(白) 13:40 14:50 15:35 15:47 16:00 17:00						
3日目	ホテル……秋保リゾートホテル前 — 送迎バス — 仙台……フルキャスト……屋食「寿司勝」……仙台 10:00 11:00 11:20 12:30						
	仙台 — はやて16号 — 東京 — 総武線快速 — 千葉 14:24 16:08 16:44 17:25						

クラスで第1位になった企画書

旅行名	歴史巡りツアー	季節	春	旅行会社名	種子島旅行	担当者名	島津・矢筈原・藤島
※2日3日の旅行、一人分の金額を出そう!!							
A交通費(1人あたり)				28,490 円			
機関別	種別	利用区間	運賃・料金	備考	D見学・入場料(1人あたり)		
JR	運賃	千葉-仙台	6300円×2		地名	利用施設	見学料金
JR	特急料金	東京-仙台	7110円×2		仙台	瑞鳳殿	550円
バス	運賃	仙台-瑞鳳殿	600円×2		仙台	仙台市博物館	100円
JR	運賃	仙台-東照宮	140円				
JR	運賃	東照宮-北山	140円				
JR	運賃	国見-仙台	190円				
B宿泊費(1人あたり)				17,370 円			
宿泊地	宿泊施設	条件	料金	E諸経費(1人あたり)			
仙台	東横インホテル	シングル朝食のみ	5670円	項目	料金	項目	料金
仙台	秋保ホテル	トリプル朝夕有り	11700円	旅行保険	200円		
C弁当・食事代(1人あたり)				7560 円			
地名	利用施設	食事内容	料金	F旅行費用計 A+B+C+D+E			
仙台	むしゃくラーメン	ラーメン	700円	54,170 円			
仙台	おでん三吉	おでん	2500円				
仙台	牛たん本舗	牛タン定食	1360円				
仙台	寿司勝	寿司	3000円				

廊下に掲示した修学旅行だより



廊下に掲示した観光ポスター類

### 3. 3年生の修学旅行

本校では3年間の集大成として、東北新幹線を利用して山形方面への修学旅行を実施している。新幹線を利用するのは、修学旅行専用列車では、時間がかかりすぎること・日程に本校の企画が発揮しにくいこともあるからである。(高速道路網が完備した現在、より学校の計画を反映しやすいバスの利用も検討している。)3日間の行程は次の通りである。

#### 事前の取り組み

「旅行企画を立てよう」・・・2年次の9月・10月(前述の内容のため省略)だより1~28号

クラスのペンションを決めよう・・・2年次11月15日~12月21日だより29~55号

修学旅行だよりでペンションを紹介

下見で撮ったビデオをクラスごとに視聴し、学級（男女別）に第1希望から第3希望を決定

修学旅行だよりで各クラスの希望順を発表し、クラスごとにそれを見て再度作戦会議

ペンションドラフト会議（12/21）でペンション決定！

体育館で学級、男女別で正式に希望票に記入させ、複数の希望があったところはいくじを引く形で決定する。

ペンションへの手紙やオーナーへの質問・・・2年次1月18日～1月20日だより56～59号  
内容は挨拶、自己紹介については全員。実行委員はそれ以外にクラス紹介、こんな修学旅行にしたいというメッセージ、オーナーへの質問（ペンションの使い方・部屋割りの仕方・風呂の使い方・オーナータイムの持ち方等）を書く。回収後生徒の写真を添えてペンションに送る。

折句を作ろう・・・2年次2月16日～2月27日便り60号・71号

実行委員会で「ふれあい」から連想されること、1年職場訪問、2年職場体験から感じたこと、3年の職場体験で学びたいことや将来の目標、どんな修学旅行にしたいかの4項目に対してでた言葉「コミュニケーション、あたたかさ」「責任感」「常識」「最高の思い出」をキーワードとして「ムツゴロウ」というテーマが決まった。ムツゴロウを使った折句を全員が作り、そこから修学旅行のスローガンを決めていった。

ム・・・ムキにならず、温かい心で、  
ツ・・・強い責任感を感じ、  
ゴ・・・コミュニケーションを取り合おう。  
ロ・・・ロマンや常識を持ち合わせ、  
ウ・・・うれしさいっぱいの最高の思い出を作ろう。

職場体験先を決めよう・・・2年次2月21日～2月22日だより61～71号

各クラスごとに2～3人のグループをつくり、ペンション決定のようにドラフトで決めた。

職場体験先に手紙を送ろう・・・3年次3月6日～3月10日だより72号

挨拶、自己紹介、将来の夢、体験にあったって等の内容で手紙を書き、生徒の写真を添えて各職場先に送った。

5クラスそのまま持ち上がりの予定であったが、少人数クラス編制で6クラスに編制することとなり、ペンションを決め直したり、再度手紙を送ったり、職場先の微調整などを4月スタートと同時にやってきた。・・・3年次4月5日～4月11日だより76～95号

1日1日のクラス別活動を考えよう・・・3年次4月5日～4月18日だより89・91号

学級で話し合い、方面具体的な行程、食事の場所等々、綿密に計画を立てた。

条件は 福島駅を10：30分に出発 ペンション村には17：00～18：00に到着できるように クラスで1台のバスで行動する



職場体験事前学習・・・3年次4月12日(2時間)だより89号

教室、コンピュータ室、図書室などを利用し、職場体験に関連することを調べて用紙にまとめた。

3日目のグループ編制と行程表決定・・・3年次4月7日～4月12日だより89～92号

クラスのバス座席、列車の座席、集合について、持ち物、緊急の場合の連絡方法、各課飯の仕事、3日間の行程確認等々、確認や事前の指導をクラス、集会、だより等で行った。4月24日～5月23日だより96～112号

### 3 日 間 の 行 程 表

5月24日(水)	5月25日(木)	5月26日(金)
各自東京駅へ みつわ台を6:30には出発 7:45 東京駅集合完了 8:20 東京駅発 やまびこ45号 10:04 福島駅着 10:30 福島駅出発 クラス別活動 クラスでコースを計画 貸し切りバス6台 17:00～ペンション着 18:00 18:30 夕食 入浴・自由時間 20:15 オーナータイム 22:00 点呼 22:30 消灯	起床 7:00 朝食 7:45 山辺町職場体験出発 8:00 山寺職場体験出発 8:30 上山農業体験出発 上山旅館体験出発  職場体験 9:00～14:30 16:00 ペンション村到着 自由時間・入浴 キャンプファイヤー準備 18:00 夕食 19:00～ キャンプファイヤー 21:00 22:00 点呼 22:30消灯	起床身辺整理・部屋掃除 7:30 朝食 8:20 蔵王温泉行きバス 8:35 蔵王温泉行きバス 蔵王温泉街散策 11:20 ペンション村行きバス 11:35 ペンション村行きバス 12:00 昼食 ペンションで食べる 13:00 ペンション発 バス4台で分乗 13:40 上山温泉駅着 14:14 上山温泉駅発 つばさ118号 16:54 東京駅着 新幹線改札口付近で解散 各自自宅へ 18:30 みつわ台着予定

### 1 日 目 の 活 動

一日目は、1学年次の経験を生かした「東京駅集合」から始まる。修学旅行だよりで事前に情報は与えてはいるものの、各自が時刻表やインターネットで電車の時刻を調べ、個人で集合するが、遅れてくる生徒は皆無であった。

2年から3年に進級する際、いわゆる「持ち上がり」で、学級解体はしない方針であるが、事前の取り組みでも記述したように5学級から6学級に編制し直したため、前年度末からの計画は多くの部分で練り直しを迫られた。一日目は主眼を「学級作り」におき、学級ごとの計画による活動を行った。

ある学級は松島の見学に、別の学級は喜多方の町をゆったりと散策するなど、それぞれに学級の企画による「楽しむこと」を期待した。各学級1台のバスは、やはり融通が利いたが、「情報処理・予測判断・現実」とのギャップは当然発生し、企画することの難しさを実感したようである。

宿泊は蔵王のペンション村を借り上げた。各ペンションが近接し、条件にも大きな差はなかった。

#### 1日目の学級別活動コース

	10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	ペンション着
1組 30名 田辺・高柳 添乗員	福島駅		伊達の牛タン 東インター店 1575円		松島遊覧船 14:00～ 980円	松島 15:00発	青葉城 16:00着	青葉城 17:00発	18:30
2組 29名 岡田・教頭	福島駅		リナワールド 12:30着 2500円	そば打ち体験 13:00～ 1300円	リナワールド 自由時間			リナワールド 17:15発	17:45
3組 30名 長島・西川 大森	福島駅		伊達の牛タン 宮城インター店 1575円	青葉城 13:00着	青葉城 14:00発	マリンゲート塩竈 15:00発 1000円	松島 16:30発		18:30
4組 30名 町田・平野	福島駅		喜多方 12:15着		喜多方 14:30発	小野川温泉 15:30着	小野川温泉 16:45発		18:15
5組 29名 花沢・校長 田中・添乗員	福島駅	駅弁購入 予約済み 花沢支払い		松島遊覧船 13:00～ 980円	松島 14:00発	勝山スケータング クラブ 15:00着 1050円		勝山スケータング クラブ 17:15発	18:45
6組 31名 根本・前田	福島駅	遠刈田温泉 エボシ溪流釣り堀 蔵王こけし館 銭湯	11:20着12:45発 1250円 1130円 200円		山辺玉虫湖畔荘 ジンギスカン 13:45～ 1800円	いちごガーデン 15:00～ 1000円	チェリーランド 16:00着	チェリーランド 17:00発	18:00

## 2 日目の活動

二日目は上山を中心とする農業体験が中心である。農協から紹介していただいた農家に5～6名の班がお世話になった。果樹せん定、田植え、花卉定植の時期であり、各班ごとにそれぞれの仕事に従事した。果樹せん定では「ひと枝切り損なうと数百円の損害になる」という言葉に緊張したようである。（この様子は昨年山形新聞で紹介された）

田植えでは、機械が入らない田のスミや、わざわざ植え残してくださった部分に苗を植えていた。根の押さえが甘い子どもの「仕事」では、ちょっとした風にも苗が浮き上がってしまい、やり直しになるが、各農家の方々は親切に対応してくださった。

別の農家では、お盆に出荷するアスターの苗を定植していた。それぞれ真剣なまなざしで作業に取り組んでいたが、種まきから出荷まで、半年近い時間を要することを知り、千葉の子供たちには普段経験できない農家の苦労を、昨年の職場体験の経験と合わせて体得したようである。

こうした体験が、すぐに「生きる力」の育成に関係するとは考えにくいだが、ここで得た知識は「興味・関心」として根付くことが期待される。

子供たちには各農家の方々からいただいた心の温かさが、ジュースの甘さと共に印象に残ったようである。

その他、一部の生徒は農業以外の職種を体験した。土産物屋で販売にあたる者。旅館の清掃などに汗を流す者と、ここでも多くの方々のお世話になった。しかしいずれも一日だけの体験であり、時間的な制約からやむを得ないが、二年次の五日間の体験と比較して、どうしても表面的なものになってしまうことは残念である。

職場体験を受け入れてくれた場所・人数

上山JA	77	山寺土産屋等	41
1個人農家	3	1おのや	2
2個人農家	4	2辰美屋	2
3個人農家	5	3風雅の国	5
4個人農家	3	4えんどう	3
5個人農家	3	5対面石	2
6個人農家	5	6いずみや	2
7個人農家	3	7寺子屋本店	2
8個人農家	3	8美登屋	2
9個人農家	3	9常力坊	2
10個人農家	3	10山崎屋	2
11個人農家	3	11ふもとや本店	3
12個人農家	3	12まいどや	2
13個人農家	3	13商正堂	2
14個人農家	3	14風流堂	2
15マウンテンファーム	30	15与平衛寮	3
上山旅館	44	16たていし	2
1月岡ホテル	4	17立石寺	3
2ニュー村尾温泉館	9	山辺農業	17
3有馬館	3	1個人農家	3
4あづま屋	14	2個人農家	3
5橋本屋	6	3個人農家	4
6まるみ	6	4個人農家	3
7名月荘	2	5個人農家	4



旅館の庭を掃除している



上段

旅館でスリッパを拭いている

中段

農場で牛の説明を受けている

下段

農家で昼のひととき



畑で雑草を抜いている



農業（果樹園）：農業の中でも「花卉」という花をきれいに育てて売するための仕事を手伝わせてもらった。花の余分なところを切って手入れするのがなと思っていたことは結構当たっていた。花の植え替えをして1本1本がしっかりときれいに育つようにしていたのが考えているなあとと思った。

お土産屋さん：モロコシを袋に詰めてシールを貼ったりラッピングした。おまんじゅうやさんと聞いていたので実際におまんじゅうを作ると思っていた緊張していた。自営業は自分で作ったものを自分で売る喜びがあるんだと思った。

農業（田植え）：大変だった。農業はずっと外にいるから暑くて日光ばんばん！田植えはヌルヌルしてドロドロで最初は気持ち悪かった。でも慣れてきたらドロドロの感じが幼稚園に戻ったようで懐かしかった。田植えは腰がいたくなくなりつらかったが鈴木章さんは駄洒落が好きで楽しかった。

旅館：部屋掃除があんなに大変だと思わなかった。掃除をしている人は年配の女の人だった。ずーっと掃除を続けたあと、炭酸ジュースを飲んで「これが良いの！」といった時のおばさんたちの充実した顔が素敵だった。

牧場：牛の乳搾りや餌やりなどをした。乳搾りはあまりうまくできなかったが、餌やりではすごく食べさせてやった。その時の牛の舌がやばかった。舌を食べるのは少し嫌になった・・・。

2日目の夜は「ふれあい」をテーマにペンションのオーナーさんや市役所の方々を招き、キャンプファイヤーを実施した。親睦の火の部分ではオーナーさんたちも交えてフォークダンスを楽しんだ。また、6月実施の体育祭で3年生が踊る「みっ中ソーラン」を早めに練習し、感謝の意味で披露させていただいた。オーナーさんたちも歌をプレゼントしてくれるなど交流を図ることができた。

### 3日目の活動

三日目の現地行動は半日だけであるが、学年集団意識の向上に重点を置いた。蔵王温泉街を小グループにわかれ、学年全体で散策や買い物を楽しんだ。一日目のクラス単位の行動、二日目の班別体験、そして最終日の学年行動と、それぞれの目的を明確にした、充実した修学旅行になった。

### 事後の学習

修学旅行を振り返って

いろいろな項目をもうけたアンケート形式で、今回の活動を振り返らせた。

起業家になろう

自分だったら山形でこんな作物を作ってこのように販売してみたい、山形の特徴を活かした新しいおみやげのメニューを開発してみよう、自分が旅館の経営者になったら山形の特徴をどうやって出さそうかなど、それぞれが体験してきたことをもとにして、いろいろなアイデアを出させてみた。

### 最後に・・・

行事を終えて、新聞作りなどで修学旅行を振り返り、発表する場を設けることは多いが、昨年はさらに一歩すすめて、お世話になった上山農協との連携の方法を考えた。具体的には、11月に本校で実施するPTA主催のバザーに、上山町の特産品である洋なしとお米を送っていただき、上山を紹介しながら販売することである。相互に連絡を取り合いながら、主として旅行を担当した生徒達が販売にあたった。洋なしは即座に完売し、お米は「私たちが植えたものかも知れない」ということで、熱心な売り子に変身し、これも完売した。そうした子供たちの変身は、修学旅行という体験にねざしたものであり、「現地でお世話になった」という心からの感謝の気持ちが表れたものであることは言うまでもない。これは受動的な修学旅行から一歩進め、「自力・主体」の活動を通して、自ら学び取ったものである。

後日、山形に行く機会があったが、新幹線の駅売店に置かれた「かみのやま」と書かれた段ボールに心引かれ、洋なしを購入した。

未来を生きる子供たちにとっても「かみのやま」という文字には同じような思いをおぼえることと思う。そして、その思いは一地方を示す固有名詞ではなく、その地域を構成する方々への感謝の思いである。

また、この感謝の思いはこれからの子供たち一人一人の生き方にも反映・発展するものであることを信じ、一緒に活動をともした学年職員、農繁期にもかかわらず、子供たちを受け入れていただいた関係諸氏に心からの感謝の気持ちをおくりたい。

## まとめと今後の課題

### 1．実践の成果

本校は数年前までいわゆる荒れた学校であった。気を抜けばいつでもその当時の状況に逆戻りしてしまうような環境的な問題は現在も抱えている。しかし、目的や目標を明確にして綿密に計画し、実践を行い、実践に対する評価や反省をきちんと行い、次につなげていくという至極当たり前のことをひとつひとつ丁寧に行っていくことで落ち着いた学校に戻ってきていると考えている。そして、3年間を見通した修学旅行の取り組みは、単に修学旅行という枠だけでなく、学年・学校作りの一つの大きな要因であったのではないかと考えている。

抽象的で泥臭い大雑把な実践の成果になってしまうかもしれないが、この修学旅行のテーマのひとつひとつを心に刻みながら実践していく過程で、子供たちの変貌は十分実感できたという思いがある。

いついかなる場面でも生徒と教師のふれあいを大切にし、教師の思いを伝えながら取り組みを進めていく中で、全員が一つの方向に向けて頑張るという姿勢が着実に育ってきており、それは他の行事にも反映している。例えば修学旅行直後に行われた体育祭では、子供たちが自発的に動き、みっ中ソーランの集合時には学年全員が大きな一つの輪になり、ソーランの成功を祈って、かけ声をかけあう場面もみられた。

また、子供たちが行ってきたひとつひとつの取り組みに対して、事後の感想をみると、体験を重視した取り組みに対しては、教師側が予想したこと以上のことを感じ取り、身につけることができたことがわかり、3年間をトータルした修学旅行の取り組みは、教師にとっても、子供たちにとっても大きな手応えとなっている。

### 2．今後の課題

今後の課題に関しては、職場体験の受け入れ先の確保が大きいと考える。

一つは1年次の東京下町の地場産業の職場見学で、職人さんたちの高齢化や跡継ぎがないことなどから今年は受け入れてもらったが、来年度は確実に受け入れてもらえるという確証がないということである。教師が足と時間を使って開拓せざるをえない現状を何とか改善できないだろうかということここ数年考える次第である。

二つ目は、3年次の修学旅行先の山形では、JA や市役所等公の機関やペンションのオーナーさんたちとの意思の疎通である。もちろん旅行業者の担当の人も含め、心を通わせながら、こちらの考えをいかに理解してもらい、相互で努力しながらやっていくということが大切であるが、いつ誰が担当しても実現できる修学旅行であるための条件作りが今後の大きな課題であると考えている。